

医療法人弘仁会 南和病院

使用製品：メディエイド アシストギア 腰ユニット

施設のご紹介

奈良県中部に位置し、自然豊かなベッドタウンの顔を持つ大淀町に施設を構える南和病院は、長期療養病棟、急性期一般病棟、介護医療院からなる統合型のケア・ミックスの病院です。開設して約20年、南和地域の慢性期医療の一端を担ってきました。「患者さんの人格を尊重し、心の通うぬくもりのある医療・福祉を目指します」を理念に掲げ、「患者さん中心のチーム医療」に徹し、「安全安心の医療」を提供できるよう心がけています。



抱えていた課題、そしてメディエイド アシストギア 腰ユニットとの出会い



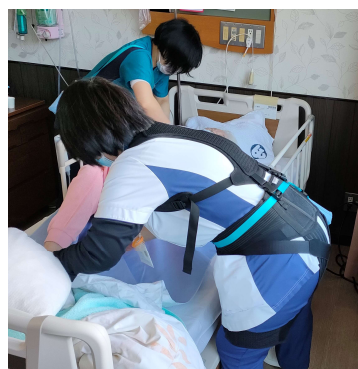
左:山下昌宏氏、 右:横山久美子氏

患者さんの移乗や体位変換、オムツ交換といった作業が多いため腰痛を抱える看護・介護スタッフが多く、職場離脱を考える人も出てくるくらい状況で、腰痛対策が喫緊の課題でした。介護ロボット補助金を活用したロボット導入を検討し、動力タイプや空気圧タイプのアシストスーツを試してみたのですが、現場から「重い、装着が大変」といった意見があり、導入に至りませんでした。

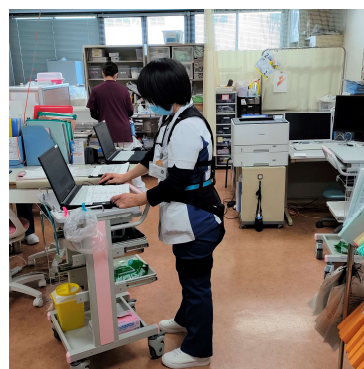
展示会で【メディエイド アシストギア 腰ユニット】を発見、試着して「これならいけるのではないか？」と思い、現場で試してみたところ、「軽い、装着も比較的容易」との回答がありました。複数人数分用意する際のコスト面でメリットも大きく、導入に至りました。

メディエイド アシストギア 腰ユニットを使って

導入して間もない段階ではありますが、身体が守られている実感がある、装着していると安定感がある、腰痛を抱えている人は移乗、体位変換といった中腰での作業の際に腰が楽、といった声が多く上がっており、課題解決に一定の効果があると考えています。



腰に負担のかかる作業をサポート



装着したまま事務作業が可能

今後について

白衣のポケットにPHSなど物を入れると腰ベルトがズレやすい、トイレの際に不便、脇の部分がすれるなど、一部に不便さを訴える声があるのも事実ですが、現時点ではメリットの方が大きく、勤務時の使用を続けたいというのが現場の結論です。夏場に向けての暑さ対策や不便さの対策を考えながら、患者さんだけでなく、看護・介護スタッフなど現場で働く人の身体のケアも大切にしたいと思えます。

